

IoT時代のワンポイント講座 地図・地球データ

ご購入はこちら

第2回 地図上のデータ値の可視化

平野 匡伸



図1 前回やったこと…データの取得位置を地図上に表示できるようになった

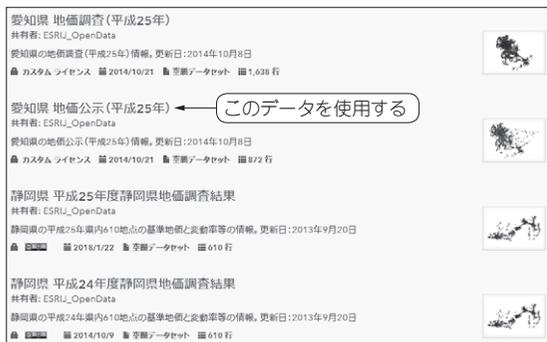


図2 「地価情報」の検索結果(のごく一部)

● データの可視化が地図活用のキモ

前回(2018年3月号)は、皆さんが持っている住所付きのデータを地図上に落とす(マッピングする)方法を紹介しました(図1)。実際に試した方は、住所の1件1件が簡単に地図上の位置(ポイント)として表示できることが分かったと思います。これがまさに地図を使用した情報の可視化です。ちょっと格好つけた言い方をすれば、「ビジュアライゼーション」です。

さて、実際に可視化を行った結果が、ただ単にアイコンが地図上に並んでいるだけでも役に立つ場合は多

注1: 本稿では、愛知県がCCBY2.1JPライセンスで公開した愛知県 地価公示(平成25年)のデータを使用しました。

注2: このデータにも住所情報が含まれていますが、既に緯度と経度の位置情報があるので、ジオコーディングは行っていません。



図3 データの可視化①…値によって円の大きさを考える

いでしょう。元のデータからは読み取りにくかった「地理的な傾向」が分かりますからね。

でも、それだけでは「基本のキ」のさらに「キの書きかけ」ぐらいのことです。地図を使った情報の可視化は、もっと幅広いものです。

データの可視化①… 値の大小で円のサイズを変える

インターネット上で公開されているオープンデータによる可視化の例を見てみましょう。オープンデータの検索が行えるポータル・サイト<http://data.esri.jp/>(esri ジャパン)では、国内の「位置情報がひもづいたオープンデータ」を収集して公開しています。例えば、このサイトで「地価情報」というキーワードで検索すると、愛知県や静岡県の地価情報データが検索結果の上位に出てきます(図2)。

地価のデータを可視化してみましょう。先ほどの「地価調査」による検索結果から、「愛知県 地価公示(平成25年)注1」をクリックし、次の画面で「ダウンロード」→「スプレッドシート」の順に選択すると、データをCSV形式のテキスト・ファイルとしてダウ